

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語とインドネシア語の条件法の対照研究
Author(s)	スサナ ユリアニー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1991 : 31 - 37
Issue Date	1992-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039299">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039299</a>
Right	
Relation	



## 日本語とインドネシア語の条件法の対照研究

スサナ ユリアニー

## 1. はじめに

バジ<sup>x</sup>ツ<sup>x</sup>ラン大学の三年生の時、ある日本語の試験に、

東京に	a. 行ったら b. 行けば c. 行くなら d. 行くと	私を連れて行って下さい。
-----	--	--------------

という問題が出された。

その問題を読んで、私はどの答えを選ぶのがいいのか迷ってしまった。その時まで二年間半ほど日本語を勉強してきていた私は、日本語の条件の言い方の「バ、タラ、ナラ、ト」は意味が同じで、どんな場合でも言い換えることができると思いこんでいた。

インドネシア語も、条件の言い方がいくつかの語で表現できる。それは「KALAU、JIKA、BILA、ANDAİKAM」という語である。4語とも意味が同じで、英語の「IF」に相当する。

例文をあげてみよう。

KALAU BESOK HUJAN, SAYA TIDAK AKAN PERGI.  
 ( IF IT RAINS TOMORROW, I WON'T GO ).

言い換えれば、

JIKA BESOK HUJAN, SAYA TIDAK AKAN PERGI.  
BILA BESOK HUJAN, SAYA TIDAK AKAN PERGI  
ANDAİKAM BESOK HUJAN, SAYA TIDAK AKAN PERGI.

上記の例文の場合は、「KALAU、JIKA、BILA、ANDAİKAM」の中で、どちらを使っても、意味が同じで、おかしい文とは思わない。

日本語の場合は、

あした雨が降るなら、私は行きません。  
 あした雨が降れば、私は行きません。  
 あした雨が降ったら、私は行きません。

という文はふつうだが、場合によって使い分けが認められる。

あした雨が降ると、私には行けません。

という文はあまり言わないだろう。

本田良行「日本語の類意表現」の本から例をとりあげよう。  
「がつて、台湾から来た留学生の作文に、「私はお金が」と、家を建てます」という文があった。この人は金の手に入ると、いつも家を建てる趣味があるのがしろ。それにしても、学生がそんなになに何度も家を建てたはずはないとよく問いただしてみると、「私はお金があれば、家を建てます」の誤りだった。家を建てたいが、金がない。お金があれば、家を建てたい。

(447 ページ)

上記の例にも見られるとおり、やはり「バ、タラ、ナラ、ト」を使う上で、不自然な文が出てこないように、日本語を勉強している外国人の私達にとって、どんな場合にバを使った方がいいのか、どんな場合にタラを使った方がいいのか、よくよく気をつけなければならぬと思う。

まじ 「外国人のための基本語用例辞典」の記述を見てみよう。

#### て → 助詞

1. ある動作が行われた場合につづいて、すぐ別の動作がおこることを表す。

例：電車が止まると、のっている人が降り始めた。

2. ある動作からほかの動作がおこるという関係を表す。

「は」「たら」よりも、前の文とあとの文との結びつきが強く、

ある動作から、必ずほかの動作がおこるというような場合に使う。

例：夜になると、暗くなる。

#### は → 助詞

活用の④につづく、ただし形容詞や形容動詞型の助詞では「なら」、助動詞「た」では「たら」と「は」の略された形で使うことが多い。

1. 「もしその動作が行われた、あるいはその状態になったと考えた時には」という意味を表し、現在はまだそうになってない場合に、そうなったものばかりに考えていう時に使う。

- いっしょうけ人の練習すれば、きっと上手になりますよ。

- あなたが行けば、私も行きます。

2. その人にとって実際にそうであるかどうか分からない時、「もしそうである時は」との意味を表すのに使う。

- 寒ければ、窓を閉めてもいいですよ。

3. そのような時には、必ずあることがおこるという関係にある二つの物事を結ぶのに使う。

- 春になれば、花がこぞます。

たら → 記載されても、条件の言い方と関係づけられて説明されていない。  
 なら → 記載なし。

## 2. 「バ、タラ、ナラ、ト」の用法の分析

日本語の条件の言い方の「バ、タラ、ナラ、ト」がどのように使分けられているのであろうか。以下に用例の分析を通して、使分けの基準を明らかにしていきたい。

### 1. ト

トはある状況からある論理的な結果がおこるという関係を表す。  
 Aが生ずると決ってBとなる。  
 A状態の時は決ってBである時に「ト」は用いられる。  
 (林田, 1988, 448)

- (1) 春になると、あたたかくなります。  
 (2) あの角をまがって、三分ぐらい歩くと、郵便局がある。

(1)と(2)の場合には、Aがおこると必ずBがおこる。それ以外に、「ト」もある動作の習慣的な結果を表すのに用いられることがある。

- (3) 朝ごはんを食べないと、一日中体がたるくなる。  
 (4) 夜十時までに帰らないと、母がこまる。

宮島によれば、トにはつづけてする動作を表す用法がある。これはバ、タラの表す意味にはならない。これは言いかえれば、バ、タラではなく、むしろテであり、条件の表現というよりも継起の表現である。

(宮島, 1957; 320)

- (5) ゆうべ家に帰ると、Aさんから電話があった。

### 2. たら

タラは、BはAがおこったあとにおこるという条件を表している。例を上げてみよう。

- (6) はんごは人を食べたら、勉強します。  
 (7) 日本に行ったら、新幹線にのれる。

(6)で、勉強するのははんごは人の後である。(7)の場合にも、まず日本に行って、そして新幹線にのれるのである。

また、主文に命令、すすの、許可、希望、意志など、判断以外の表現がくる場合にはタラが用いられる。  
 (宮島, 1957; 321)

(4)

- (8) 学校が終わったら、早く帰りなさい。(命令)
- (9) 日本の古い町を見たかったら、京都へ行った方がいい。(すすの)
- (10) 仕事が終わったら、帰ってもいい。(許可)
- (11) お金があったら、日本に行きたい。(希望)
- (12) くわしく時間が分かったら、またお知らせします。(意志)

なお、森田によると、タラは個別的な条件を表す。

- (13) 春が来たら、花がとく。

とくもことも可能となる。話し手の個人的な判断を示す形式であるから、後件は自由に換えられる。(森田、1988; 467ページ)

- (14) 春が来たら、国へ帰る。
- (15) 春が来たら、結婚しよう。

### 3. は

ハには後件がおこるために、前件が必要な条件を表す。

- (16) A: どうすれば、体が元気になるでしょうか。  
B: ずいぶんスポーツをすれば、体が元気になります。
- (17) 彼に会えば、そのことを聞きたいです。
- (18) くまりを飲めば、なおります。

既定条件でハはおもに一般的条件を表す。(タラは個別的な条件を表す。(宮島、1957, 321ページ))

- (19) 小学生時代にいい点数を受ければ、父からプレゼントをもらった。

(19)のような何度もくり返しておこることについての一般的な条件を表すにはハを使った方がいいだろう。(この場合に、トに言い換える)。

また、ハとトの使い方に「～ハよい」と「～トよい」というのがある。

- (20) その時、電話をしてくれればよかったのに……
- (21) 日本にいる内に、東京へ行ってみるとよいだろう。

「ハよい」と「トよい」とを比べると、「ハよい」は時に「～さえ～ハ、それでけっこうだ」という消極的なニュアンスをともなうことがある。(宮島、1957, 322)

### 4. たら

ナラには前件が正しいと断言する。(相手が言ったとおり)。ナラとタラとでは時間順序が逆になる。

(16) 日本語を勉強するなら、この本を買って下さい。

(17) 日本へ行くなら、JALで行った方がいいです。

(16)の場合に日本語の勉強はまだはじめていない。相手は日本語を勉強したいと言った。日本語を勉強するなら、前もって、この本を買った方がいいということを表す。(17)の場合も(16)と同じことを表す。

森田によれば、ナラの条件には、次の三つの点か、重要な要素として、浮んでくる。

- 前件の事柄は外から入った情報ないしは話し手の意思以前に決定している事象
- 後件で示される事柄は前件で述べた事態の実現以前に成立する。もしくは、すでに成立している。
- しかも、後件には話し手の意思による判断が示される。

例を上げてみよう。

(18) 雨が降るなら、傘を持って来い。

という文を読んで、どのような状況を想像するか、たぶん話し手は相手から「今日は雨が降るそうよ。こつと天気予報でそう言ってきたから」と言われて、「そうか、午から雨になるのか、雨が降るなら、傘を持って来い」と玄関先でおくさんにでも命じているのであろう。

(森田, 1988; 461-462)

以上で、日本語の「バ、タラ、ナラ、ト」の分析をのべることにする。

### 3. インドネシア語の条件の言い方。

インドネシア語には日本語の条件の言い方のような使い分けがない。インドネシア語の場合はいくつかの語で表現できるが、いちばん多く使われているのは「KALAU」という語である。KALAUは話し言葉だが、「JIKA, BILA, ANDAIKAPAN」はほとんど書き言葉に使われていて、普通の会話ではあまり使わない。それで、「バ、タラ、ナラ、ト」はインドネシア語になおしたら、どううでも「KALAU」になる。

あした雨が降るたら、私は行をません。

あした雨が降るなら、私は行をません。

あした雨が降れば、私は行をません。

あした雨が降ると、私は行をません。

これをインドネシア語になおしたら、みだ

「KALAU BESOK Hujan, SAYA TIDAK AKAN PERGI」になる。

(6)

(a) 日本語を勉強したら、日本に行きなさい。

(b) 日本語を勉強するなら、日本に行きなさい。

(a)の場合に日本に行くのは日本語を勉強したあとというニュアンスがあるだろう。(b)の場合には日本に行くのは日本語を勉強する前だとのニュアンスがあるだろう。インドネシア語になおせば、二例とも、

KALAU BELAJAR BAHASA JEPANG, PERGILAH KE JEPANG

とすることでもできる。そうすると、ここにはタラとナラの使い分けは見られない。その場合には、

日本語を勉強したら、日本に行きなさい。

KALAU SUDAH BELAJAR BAHASA JEPANG, PERGILAH KE JEPANG.

日本語を勉強するなら、日本に行きなさい。

KALAU MAU BELAJAR BAHASA JEPANG, PERGILAH KE JEPANG.

と「SUDAH」と「MAU」を入れることによって、タラとナラの使い分けのニュアンスをはっきりとさせることができる。(SUDAHは完了の意、MAUは願望の意を表す)。

(c) 日本へ行けば、日本語が上手になる。

(d) 日本へ行くと、日本語が上手になる。

インドネシア語になおせば、

日本へ行けば、日本語が上手になる。

KALAU PERGI KE JEPANG, AKAN PANDAI BERBAHASA JEPANG.

日本へ行くと、日本語が上手になる。

KALAU PERGI KE JEPANG, PASTI AKAN PANDAI BERBAHASA JEPANG.

上記の例文を見ると、バ、タラ、ナラ、トの使い分けが見られるように、どんな場合がはっきり表すたのには、「KALAU」とともに、場合によって、他の語を入れて、どのような状況での条件の言い方なのかを示している。どんな語が必要なのか、日本語の条件の言い方から、インドネシア語になおす時、日本語の条件の言い方の使い分けがよく分からなければ、場面状況の説明はできなない。バ、タラ、ナラ、トが使われる状況をより具体的に説明すること、何が説明したいことなのかをしっかりとはっきりさせることができるようになると思う。

## 4. おわりに

日本語の条件の言い方は、いくつかの語で表現されている。それは「バ、タラ、ナラ、ト」である。それうちのいくつかの言い方は、相互に言い換えられる場合もあるが、場合によっては使い分けが認められないこともある。

インドネシア語の条件の言い方にもいくつかの言い方がある。それは「KALAU, JIKA, BILA, ANDAIKAN」という語である。しかしインドネシア語の条件の言い方では、日本語のような使い分けは認められない。いくつかの言い方の中で、もっともよく使われるのは「KALAU」である。「JIKA, BILA, ANDAIKAN」はほとんどの場合で書き言葉で用いられ、ふつうの会話ではあまり使われない。それで、日本語のバ、タラ、ナラ、トをインドネシア語になおす時は、だいたい「KALAU」を使えばよいことになる。しかし、つねに「KALAU」だけになおしたら、そこには日本語のバ、タラ、ナラ、トの使い分けは見られないことになる。したがって、バ、タラ、ナラ、トの使い分けをほんのり伝えられるように、KALAU とともに他の語を用いることになる。

日本語を勉強している外国人の知識は、日本語の条件の言い方を用いる文を作る時、不自然な文が出てこないように、そして日本語から自国語に、日本語の条件の言い方をなおす時、何が言いたいことや何が説明したいことなどが、よりほんのり通じるように、日本語の条件の言い方の使い分けをよく分析し理解しておかなければならない。

## 参考書

- 森田良行 「日本語の類義表現」 1990、株式会社創拓社
- 宮島達夫 「口語文法の問題点」 1997、明治書院